

事務事業評価票

④経常的事務事業

事業名		遺跡発掘調査			330	予	会	一般会計		01
部 門		文化			330	算	計	教育費		10
施 策		歴史・文化の保存継承と情報発信			1	費	目	生涯学習費		09
作成部署		教育委員会事務局生涯学習部文化財保護室			40	目	目	生涯学習推進費		01
			01	11	連絡先 9 7 2 - 3 2 6 8					
事業の目的	対象（誰を・何を）				意図（どういう状態にしたいのか）					
	掘削工事によって破壊される埋蔵文化財				破壊される前に発掘調査を実施し、記録として残し、歴史と文化の継承を図ります。					
事業の内容	文化財保護法に基づく事業です。 開発行為等により破壊される埋蔵文化財を工事着工前に発掘調査し、記録として保存します。 公共工事に関連する場合は、開発部局との連絡調整を行います。 埋蔵文化財包蔵地内で開発行為等を行う事業者は、市教育委員会にその旨届出をします。埋蔵文化財の保存上、特に必要があると認めるときは、発掘調査等の指示をし、調査を実施します。									
開始年度		昭和 25 年度		根拠法令・要綱等		文化財保護法				
事業費・人員		16年度決算額	17年度決算額	18年度予算額	計画掲載	名古屋新世紀計画2010第2次実施計画			無	頁
事業費（千円）		23,850	42,146	55,258	個別計画					頁
財源内訳	国・県支出金	3,990	7,000	7,033	事業の実績		単位	16年度	17年度	目標19年度
	地方債				①	発掘調査面積	㎡	3,300	3,942	4,000
	その他特定財源	7,588	3,930	44,800						
	一般財源	12,272	31,216	3,425	②	発掘件数	件	13	14	—
職員数（人）	10.0	10.0	10.0							
成果指標	事業の目的の成果を測る指標			指標設定の考え方		単位	16年度	17年度	目標19年度	
	①	発掘調査率		発掘調査が必要とされる遺跡について、すべて調査を実施し、埋蔵文化財を記録として保存します	%	90	95	100		
		$\left[\frac{\text{発掘総件数}}{\text{発掘調査が必要とされる件数}} \right]$				目標 (100)	目標 (100)			
②					目標 ()	目標 ()				
事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等										
市内周辺部での土地区画整理事業が進展する一方、市街地では、マンション建設の増加や市街地再開発事業が大型化する傾向にあり、調査面積も増加傾向にあります。しかしながら、発掘体制においては、平成16年度から発掘調査担当職員を1名減とし、効率化に努めました。										
市評価										総合評価
評価	有効性	4	文化財保護法の規定に基づき、滅失してしまう埋蔵文化財の発掘調査を行い、遺跡の記録を保存し、出土品を保管して行くことは、学術文化振興のためにも重要な事務事業といえます。						A	
	達成度	3								
	効率性	4								
行政評価委員会の外部評価										総合評価
(この事業に対するコメントはありません。)										A

事務事業評価票

④経常的事務事業

事業名	調査研究（博物館）			331	予	会	一般会計		01
部 門	文化			330	算	計	教育費		10
施 策	歴史・文化の保存継承と情報発信			1	費	目	生涯学習費		09
作成部署	教育委員会事務局博物館総務課			40	目	目	博物館費		04
				13	01	連絡先	052-853-2655		
事業の目的	対象（誰を・何を）			意図（どういう状態にしたいのか）					
	尾張地域の歴史に関して、各地に所在する資料および博物館に関する情報			様々な視点、テーマで資料の所在・内容を確認・調査し、その成果を研究紀要・調査報告書・博物館だより・展示図録等の出版物で市民に報告するとともに、展示・資料収集などの博物館活動や文化財保護に役立てます。					
事業の内容	テーマ研究：2～3年間の調査期間を設け、学芸員2～3名で特定のテーマを設定して調査研究を行います。 ○愛知の近代建築（平成14～16年度）：県内の近代建築・産業遺跡の所在調査と古写真など関連資料の調査収集研究 ○尾張弥生文化の研究（平成16～18年度）：弥生時代資料の所在調査と周辺情報の調査収集研究 ○近世尾張文人の足跡（平成16～18年度）：各地の文化人や寺社にのこされた尾張の画家・書家の作品や資料の所在調査と関連資料の調査収集研究 ○城下町名古屋の変貌（平成17～19年度）：城下町から近代都市への変貌を考える手がかりとなる城下に住んだ武士や商家の資料、近代産業に関わる資料の所在調査と収集および研究								
開始年度	昭和 54 年度	根拠法令・要綱等			博物館法・名古屋市博物館条例				
事業費・人員	16年度決算額	17年度決算額	18年度予算額	計画掲載	名古屋新世紀計画2010第2次実施計画			無	頁
事業費（千円）	1,238	1,088	989	個別計画					頁
財源内訳	国・県支出金			事業の実績		単位	16年度	17年度	目標19 年度
	地方債			①	論文等の掲載本数	本	23	24	25
	その他特定財源			②	調査先箇所数	件	261	99	100
	一般財源	1,238	1,088	989					
職員数（人）	0.4	0.4	0.4						
成果指標	事業の目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		単位	16年度	17年度	目標19 年度	
	①	研究紀要等掲載論文・報告数 掲載本数 過去5年の平均掲載本数	調査・研究成果の紀要、調査報告、展覧会図録、情報誌等への掲載本数を、過去5年間の平均掲載数と比較して評価します。	%	95 目 標 (100)	99 目 標 (100)	100		
	②	講座平均参加者数 開催講座参加者総数 講座開催回数	調査研究の成果を活かした講座の平均参加者数により、調査研究の効果をはかります。	人	36 目 標 (50)	69 目 標 (60)	90		
事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等									
昭和54年度より調査研究を開始し、20本以上のテーマ研究を実施してきました。近年は、予算の減少と事業の多様化などに伴い、調査箇所を限定せざるを得ない状況になっておりますが、研究テーマを絞り込むとともに、他の博物館・研究機関などと相互協力・連携を進める等、効率的に調査研究を進めています。また、平成16年度からは、調査研究の成果をわかりやすく解説する講座を開設するなど 展示、教育事業などとの連携をこれまで以上に進め、調査研究の成果を市民に公表する機会を増やしています。									
市評価									総合評価
評価値	有効性	4	調査研究は、資料の収集・展示・教育事業など博物館でおこなう諸活動の根幹を支えています。今後も、より充実した博物館事業を提供するために、一層の調査研究活動を継続していきます。						A
	達成度	4							
	効率性	3							
行政評価委員会の外部評価									総合評価
(この事業に対するコメントはありません。)									A

事務事業評価票

④経常的事務事業

事業名	調査研究（美術館）		332	予算費目	会計一般会計教育費生涯学習費美術館費	01 10 09 06	
部門	学校教育		330	費目			
施策	歴史・文化の保存継承と情報発信		1	目			
作成部署	教育委員会事務局美術館総務課	40	13	13	連絡先	212-0001	
事業の目的	対象（誰を・何を）		意図（どういう状態にしたいのか）				
	所蔵作品をはじめとした作品並びに美術界の動きや展覧会の手法等		調査研究し、展覧会等市民に親しみやすい形で提供し、あわせて文化の保存・継承と新しい文化の創造に寄与します。				
事業の内容	①所蔵作品をはじめとした美術作品の調査、研究 ・所蔵作家の作品の調査・研究 ・収集対象の作家・遺族を通じての作品の調査・研究 ・内外の美術界の動き						
	②美術館の活動の方法の調査・研究 ・教育プログラムの調査・研究 ・学校教育との連携の調査・研究 ③調査・研究の成果と発表 ・研究紀要、アートペーパー、展覧会図録等により、論文を掲載・発表 ・コレクション解析学（5回）、展覧会の作品解説会（14回）を開催 ・郷土美術作品の収集、特別展（名古屋の美術）の開催						
開始年度	昭和 63 年度		根拠法令・要綱等 博物館法、名古屋市美術館条例				
事業費・人員	16年度決算額	17年度決算額	18年度予算額	計画掲載	名古屋新世紀計画2010第2次実施計画 無 頁		
事業費（千円）	159	640	731		個別計画 頁		
財源	国・県支出金			事業の実績 単位 16年度 17年度 目標19年度			
	地方債			①	コレクション解析学の参加者数	人	162 356 300
	その他特定財源			②	論文の掲載本数	本	12 10 11
	一般財源	159	640	731			
職員数（人）	0.2	0.3	0.3				
成果指標	事業の目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		単位	16年度 17年度 目標19年度	
	①	コレクション解析学の参加者数 〔 参加者数 / 過去5年間の平均参加者数 〕	コレクション解析学の参加者数を過去5年間の平均数と比較します。		%	74 162 137 目標 目標 (100) (100)	
	②	調査・研究に関する論文の掲載本数 〔 掲載本数 / 過去5年間の平均掲載本数 〕	研究紀要等に掲載した論文の本数を過去5年間の平均数と比較します。		%	133 111 120 目標 目標 (100) (100)	
事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等							
開館以来18年が経過し、展覧会等を通じ美術館の活動に努めてきました。その一方で資料の収集や調査・研究をしており、その成果は、美術講座（コレクション解析学）や講演会に反映しています。また、学校向け普及事業のアートカードの貸出や教師のための美術研修会もこういった調査研究の成果と考えています。今後とも成果をより分かりやすくより楽しめる形で市民に提供していくことが必要と考えています。							
市評価						総合評価	
評価	有効性	4	美術講座「コレクション解析学」は所蔵品への理解を深める好企画として着実に市民に浸透しています。また、地元作家の作品の美術館に対する寄贈も増えています。これらの活動はいずれもこれまでの地道な調査・研究活動の成果の一端であり、市民へのより良いサービスを提供するためにも、今後とも一層の充実を目指します。さらに、特別展「名古屋の美術」は当地方の戦後美術を総括するとともに、今後の展望を示した重要な試みとなりました。			A	
	達成度	4					
	効率性	4					
行政評価委員会の外部評価						総合評価	
(この事業に対するコメントはありません。)						A	

事務事業評価票

④経常的事務事業

事業名	調査研究（科学館）	333	予算	会計	一般会計	01
部門	文化	330	費	款	教育費	10
施策	新たな文化創造・文化活動への支援	2	目	項	生涯学習費	09
作成部署	教育委員会事務局科学館総務課	40		目	科学館費	05
		13	11	連絡先	201-4486	
事業の目的	対象（誰を・何を）	意図（どういう状態にしたいのか）				
	科学館における展示品、各種事業等	教育普及活動や展示品の動向を調査・研究し、その成果をいかして、今後の展示物更新や各種事業を向上させます。				
事業の内容	1 自律型ロボットプログラムの小中学生向け教育教材の開発 理工館5階ロボット工房で活用できるロボット教材の調査、研究、開発					
	2 からだをテーマとした教材の開発 生命館5階で活用できる教材、展示、プログラム等の調査、研究 3 大型望遠鏡を備えた公開天文台の調査 全国の公開天文台の中から、ユニークな特色を備えた施設の調査					
開始年度	平成元年度	根拠法令・要綱等				
事業費・人員	16年度決算額	17年度決算額	18年度予算額	計画掲載	名古屋新世紀計画2010第2次実施計画	無
事業費（千円）	594	557	580	個別計画		頁
財源内訳	国・県支出金			事業の実績	単位	16年度
	地方債			① 研究テーマ本数	本	3
	その他特定財源			② 論文等の掲載本数	本	16
	一般財源	594	557	580	17年度	18
職員数（人）	0.1	0.1	0.1	目標19年度		3
成果指標	事業の目的の成果を測る指標		指標設定の考え方		単位	16年度
	①	調査・研究成果論文等の掲載本数 〔 掲載本数 / 過去5年間の平均掲載本数 〕	調査・研究成果の紀要、情報誌等への掲載本数を、過去5年間の平均数と比較して評価します。		%	95
	②	調査研究成果を反映した事業数 〔 事業数 / 過去5年間の平均事業数 〕	調査研究の成果を反映し充実した事業数を、過去5年間の平均数と比較して評価します。		%	100
					目標	107
事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等						
科学館は、昭和37年に「天文館」、昭和39年に「理工館」、平成元年に「生命館」がそれぞれ整備され、事業活動を行ってきました。科学館の「調査研究」事業は、平成元年の生命館整備後予算化され、それまで困難であった教室事業の実施手法や展示手法、プラネタリウムの投影のための素材作成などを調査研究し、平成元年度以後の大幅な事業活動の増に大きく寄与しています。また、平成14年度の「発明発見創造クラブ」事業の開始以後は、子どもたちの関心の高いロボット事業や自然素材を扱う地球工房事業などについて、事業手法を調査研究し、改善して、事業参加者の増を図っているほか、「環境」「宇宙」や「遺伝子・生命」などの市民の関心が高い今日的なテーマについても、数年間にわたって調査研究し、他団体との連携を考慮しつつ、時代の変遷に合わせた事業活動ができるように務めています。						
市評価						総合評価
評価	有効性	4	教室事業の実施手法や展示手法、プラネタリウムの投影のための素材作成などを調査研究し、その成果を、直接、展示やプラネタリウム投影、実験・実演の事業活動に活かしている活動です。科学館の魅力向上に大きく寄与しているとともに、調査研究の成果を市民に還元することができています。			A
	達成度	4				
	効率性	4				
行政評価委員会の外部評価						総合評価
(この事業に対するコメントはありません。)						A